

since 1617

小城鍋島家成立 400 年

家 紋



小城鍋島家家紋

いりすみはなぎょうようもん
入角花杏葉紋とい
い、おしべ・めしべが
あり、四角のなかに
入っています。



鍋島家家紋

ぎょうようもん あんず
杏葉紋といい、杏の
葉をかたどっていま
す。

藩主 鍋島元茂の足跡

江戸時代、小城を治めた小城鍋島家は、1617(元和3)年、鍋島元茂が領地と家臣を譲り受け成立しました。1602(慶長7)年、佐賀藩初代藩主となる鍋島勝茂の長子として生まれた鍋島元茂は、1614(慶長19)年からは江戸に住み、江戸幕府と佐賀藩とのつながりを強めるために力を注いでいます。1642(寛永19)年には、大名としての扱いを受け、小城藩7万3千石の初代小城藩主として、蓮池藩、鹿島藩とともに、佐賀本藩を支え小城的発展の基礎を築きました。

元茂年表

1614
13歳

将軍家の勧めで江戸へ行く

祖父・直茂の元で育てられる

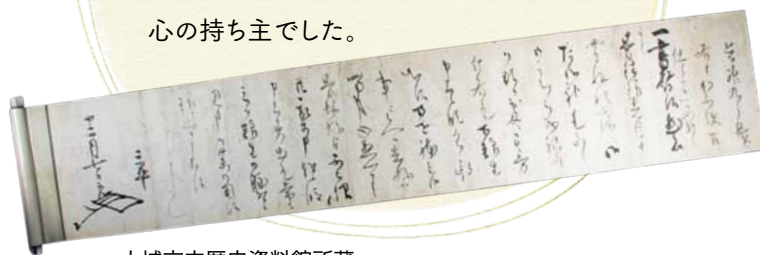
鍋島元茂誕生(幼名は三平)

1602
誕生(1歳)



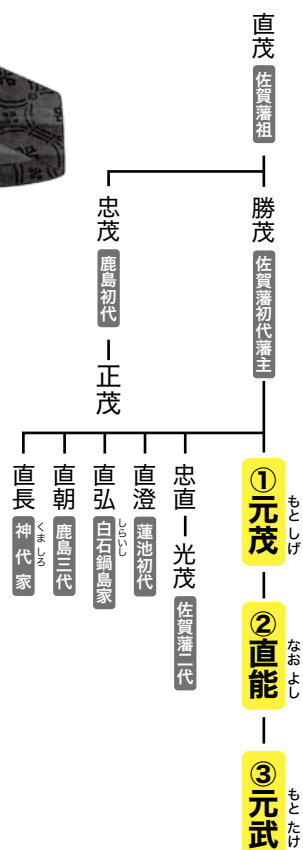
元茂逸話①

幼少期、祖父の直茂夫妻に育てられた三平(元茂)。祖母がけがをしたと聞き、家臣に宛て、祖母にしっかり治療を受けさせるようにと頼む手紙を出していました。江戸の地からも祖母を思いやる、優しい心の持ち主でした。



小城市立歴史資料館所蔵

鍋島家系図



新町の風景

元茂逸話②

生涯の多くの時間を江戸で過ごした元茂ですが、小城の鯖岡の地を愛していました。2代藩主・直能は桜が好きだった父を偲び、鯖岡を「桜岡」に改名し桜の木を植えていきました。



小城公園

小城藩の領域 (画像提供: 佐賀大学地域学歴史文化研究センター)



柳生新陰流と小城鍋島家



ふせいしゃ
武正社



ぎょくせいしゃ
玉成社

新陰流の免許皆伝の腕前をもつ元茂は、後の3代将軍・徳川家光の打ち太刀役(剣の稽古相手)にも選ばれます。その背景には柳生宗矩の推薦があったのではないかと察せられています。さらに2代藩主・直能が柳生新陰流の極意書を伝授されたことから「玉成社」として柳生宗矩を祀っています。「武正社」は柳生十兵衛を祀ったものです。



1654
53歳

1646
43歳

1642
41歳

1637
36歳

1622
21歳

1620
19歳

1618
17歳

1617
16歳

元茂没

柳生宗矩から「進履橋」
「兵法家伝書」を伝授
される

幕府の命で勝茂と
隔年で参勤交代を
行う(小城藩の成立)

島原・天草一揆が起き、
島原へ出陣する

寛永年間(1624~1644)の間に
小城上町・中町・下町、牛津
の新町をつくる

長男・直能が誕生
後の小城鍋島藩2代目藩主

元服し「紀伊守」を名乗る
きいのかみ

12月
祖母に見舞の手紙を
出す(元茂逸話)

10月
兵法免許状を受ける

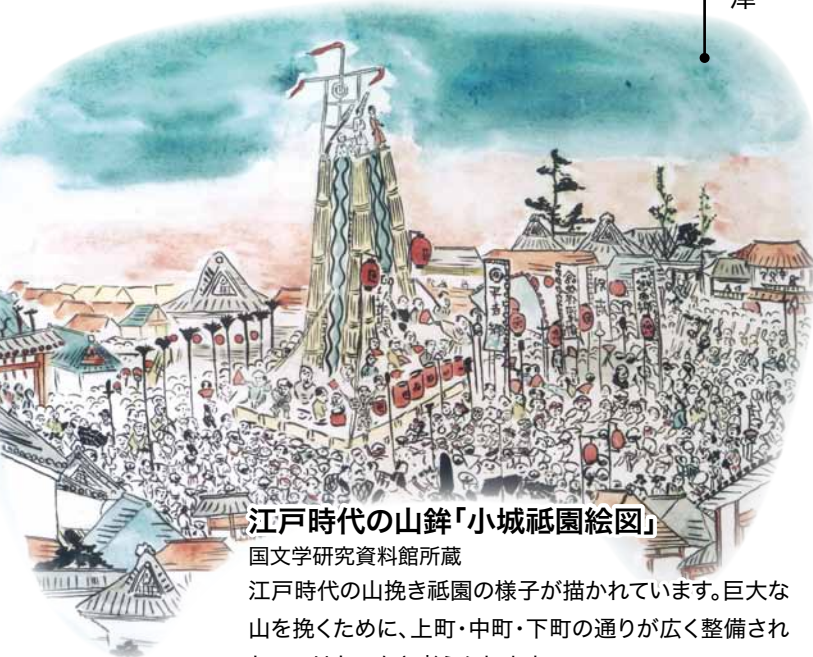
6月
祖父・直茂没

小城鍋島家の誕生

なべしまなおしげちぎょうあてがいじょう
鍋島直茂知行宛行状



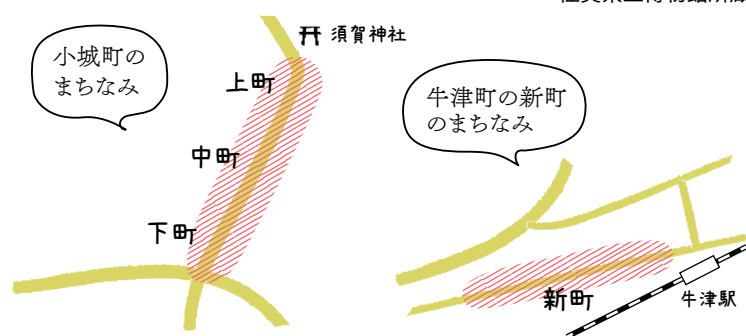
佐賀県立博物館所蔵



江戸時代の山鉾「小城祇園絵図」

国文学研究資料館所蔵

江戸時代の山鉾き祇園の様子が描かれています。巨大な山を挽くために、上町・中町・下町の通りが広く整備されたのではないかと考えられます。



平成29年度佐賀大学・小城市交流事業 小城鍋島400年特別展

鍋島元茂

父を支え小城を領す

10/28(土)～12/10(日)

9時～17時(毎週月曜日休館)

【会場】歴史資料館 企画展示室

入場料
無料



2 小城鍋島家の成立

1617(元和3)年、鍋島元茂は祖父直茂・父勝茂から土地と家臣を譲り受けました。元茂は自分の土地と家臣を持ち、ここに小城鍋島家が誕生しました。



なべしまもとしげちぎょうあてがいじょう

鍋島元茂知行宛行状

星野家文書

まつざきしちべえ

父、松崎七兵衛に与えられた知行81石(年貢米81石分の米がとれる土地)のうち、兄五郎右衛門に45石を与える旨を各々に伝えています。元和3年に領地と家臣を譲り受けた後に、家臣に対しての元茂の考えで知行を与えていることが分かります。

(1石=100升/180ℓ)



なべしまなおしげはいりょうわん

鍋島直茂拝領椀

歴史資料館寄託

小城藩家臣の日出島家に伝えられた漆塗りの椀。木箱のふたには「直茂公より朝鮮御出陣の節拝領」と記されています。朝鮮出兵の時(1592～98年)に、直茂から日出島茂次に与えられたとされています。直茂とつながりを持つ家臣が元茂に譲られて、小城藩士となります。

1 千葉・龍造寺氏から鍋島氏へ

小城は、鎌倉時代から戦国時代は千葉氏の領地でした。千葉氏の勢力が衰えてからは龍造寺氏の支配下に入り、江戸時代に鍋島氏の領地となりました。



ちばたねかつちぎょうあんどじょう

千葉胤勝知行安堵状

小城市重要文化財

歴史資料館寄託

1532(享禄5)年、千葉胤勝が南里但馬という人物に、小城郡内の土地を与えています。

貴重な品々を集めた特別展

小城の基礎をつくった元茂は剣術に長けているだけでなく、教養もあり、それを裏付けるこんなエピソードも残っています。

徳川家光の剣術稽古の相手役を務めていた元茂は、剣術の極意を尋ねられ「思わざるところよし」と答えました。これは「良い結果を期待したり悪い結果を恐れたりせず、何も思わずに行うことがよい」という意味で、元茂の卓越した人柄が表れています。そしてこの考えは、今の私たちの生き方にもヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。

「小城鍋島四〇〇年特別展」では、小城藩誕生から400年という歴史的な節目を迎えるにあたって、初代藩主である元茂にまつわる貴重な品々を集め展示します。

展示品の多くが、普段見ることのできないものばかりです。ぜひご来場いただき、元茂の人柄や生き様、小城鍋島の歴史を直接肌で感じてみてください。



文化課 係長
たくぼ よしひろ
田久保 佳寛さん

3 鍋島元茂

でんなべしまもとしげしょうかつちゅう
伝鍋島元茂所用甲冑
 佐賀県立博物館寄託



はなぎょうようもん
 花杏葉紋が、施されている甲冑で、鍋島元茂所用と考えられます。後世、しばたはなもり柴田花守が描いた「御鎧図」と文様が一致することから、長らく小城鍋島家に伝来していたことがうかがわれます。

まき え え おけ つのだらい
蒔絵柄桶・角盥
 佐賀県立博物館所蔵

元茂の祖父である鍋島直茂が豊臣秀吉から贈られた什器類です。漆を塗った上に、金粉で桐と菊の文様が施されています。元和3年に直茂から譲られました。



かます
金張り叩
 佐賀県立博物館所蔵

むしろを二つ折りにしてつくった叩をかたどった馬印。元和3年に直茂から譲られたことが記録されています。

佐賀県重要文化財



蓮池城下町絵図

佐賀藩の支藩の一つである蓮池藩の城下町(現佐賀市蓮池町)の江戸時代中期頃の様子を描いた絵図。藩主の居館である「屋形」と周辺の家臣の屋敷や寺社が記されています。右下には元茂が出生した「コマカリ」(小曲の館)の跡と思われる場所も確認できます。

AR動画が見られます



4 元茂の活躍

江戸時代初期の佐賀藩では、鍋島元茂は江戸で将軍家や他家との関係を取り持つ役割を果たしていました。また、1637(寛永14)年に島原半島で起きた「島原・天草一揆」では、弟の鍋島直澄とともに佐賀藩兵を率いて参戦しました。



なべしまわかさのかみほかれんしよきしょうもん

鍋島若狭守外連署起請文 佐賀大学小城鍋島文庫

佐賀藩の重臣たちが出陣の前に出した起請文(誓約書)。「元茂、直澄の命令に従い、勝手な行動をしない」など、書かれています。署名し、花押を施した上に血判が捺されており、決意の強さがうかがえます。

【関連行事】 記念講演会

🌸 **講演会** 11月11日(土) 14時~15時30分

テーマ 『新蔵資料「蓮池城城下町絵図」と蓮池城跡―藩祖元茂の原点の姿―』

講師 みやたけ まさと
 宮武 正登さん
 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター長)

会場 歴史資料館 研修室

🌸 **シンポジウム** 11月23日(木・祝) 13時~17時

会場 ゆめぶらっと小城 天山ホール

🌸 **史跡探訪会** 12月2日(土) 12時30分~16時30分

行先 佐賀市蓮池公園 / 鍋島元茂生誕地

集合場所 歴史資料館 展示室前

案内 小城郷土史研究会

主催 佐賀大学地域学歴史文化研究センター
 小城市教育委員会

問 歴史資料館 ☎71・1132